

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 特別天然記念物オオサンショウウオ保全推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化伝承課 記念物保護係 電話番号：058-272-1111(内3146)

E-mail : c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,155千円 (前年度予算額： 1,077千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	1,077	538	0	0	0	0	0	0
要求額	1,155	577	0	0	0	0	0	0
決定額	1,155	577	0	0	0	0	0	0

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和5年、特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体の生息が県内で初めて確認された。

交雑個体は天然記念物に該当せず、オオサンショウウオの交雑が進むことは特別天然記念物のオオサンショウウオが失われることに繋がるため、交雑個体の生息拡大を防ぐ対策が必要である。

令和6年7月1日にチュウゴクオオサンショウウオとその交雑個体が特定外来生物に指定されたため、オオサンショウウオの保護を目的とし交雑個体の防除が必要である。

## (2) 事業内容

交雑個体の生息拡大防止を目的に、交雑個体の防除のため、次の事業を行う。

○県が実施する河川工事事業及び河川外において発見された交雑疑惑個体のマイクロチップ挿入、DNA解析、一時保護。

○県が実施する河川工事事業及び河川外において発見された交雑疑惑個体が在来種であれば発見場所への放流、交雑個体であれば殺処分等。

### (3) 県負担・補助率の考え方

チュウゴクオオサンショウウオ及びその交雑個体が特定外来生物になったことにより、特定外来生物防除等対策事業交付金（環境省交付金：交付率1／2又は定額）を利用する。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	21	報償費
旅費	87	費用弁償、業務旅費
需用費	26	消耗品費
役務費	286	DNA解析費
委託料	735	一時保護、殺処分の委託費
合計	1,155	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 国・他県の状況

市町村が実施する事業費の一部を県と国が補助している。

### (2) 後年度の財政負担

国の動向を注視しつつ、後年度も継続して実施する予定である。

### (3) 事業主体及びその妥当性

オオサンショウウオは岐阜県内の広域に生息しているため、生息域が行政区域をまたいでいる。岐阜県は広域公共団体として、市町村と連携し、交雑個体への対策を進める必要がある。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

#### ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

交雑個体の生息拡大を防止を目的とし、河川外や県事業で発見された交雑疑惑個体のDNA解析、交雑個体の防除を支援することで、将来的に県内の交雑個体の減少と特別天然記念物オオサンショウウオの保全を目指す。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

#### ○指標を設定することができない場合の理由

交雑個体の個体数の減少が、数値として表れるには10年以上を要するため、現時点で目標数値を掲げることが不可能である。

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	実施していない。
令和5年度	実施していない。
令和6年度	河川外発見、県事業者で発見されたオオサンショウウオのDNA検査を行った。DNA検査を行った個体に交雑個体はいなかった。交雑個体が頻繁に発見されている下呂市以外では分布拡大は防止できていると考えられる。 市町村、事業者に対する説明会により、交雑個体の取扱いについて一定の理解を得られた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	オオサンショウウオの交雑個体による、遺伝的かく乱により在来個体の存続に大きな被害を及ぼし、令和6年7月には特定外来生物に指定された。そのため、特別天然記念物オオサンショウウオの保全ためにも、交雑個体の防除やこれ以上交雑を拡大しないように市町村や事業者へ説明会を実施することが妥当である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2 説明会等により事業者、市町村には交雑個体の取扱いについて理解を得られた。交雑個体が多く発見されている下呂市では専門家、開発事業者を交えて連絡会議を行うことで認識の共有を行った。	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	事業が開始されて間もないため評価不能である。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

交雑疑いの個体のDNA検査の結果が出るまでの一時保護施設が少ないとこと、殺処分の方法を確立することが当面の課題である。

### (次年度の方向性)

#### ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

交雑種を河川から完全に隔離するには時間を要する。他県でも対策事業を10年以上行っている事例もある。そのため、次年度も継続的な調査と交雑種の隔離を行う必要がある。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	